

蒲生干潟の植物④

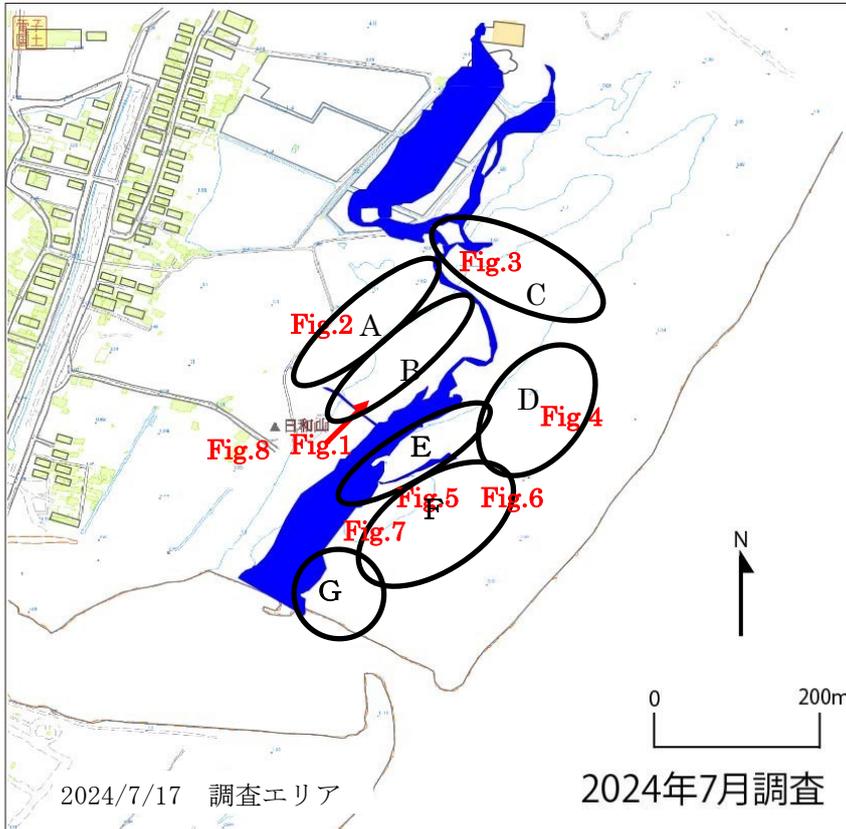


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



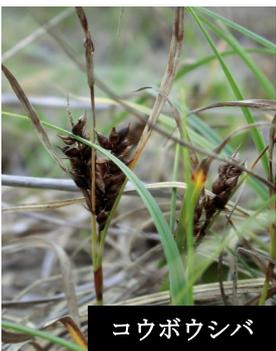
ヨシ



シオクグ

Fig.2 エリアAで撮影

Fig.3 エリアCで撮影



コウボウシバ



ウンラン



ガウラ



オニハマダイコン



テリハノイバラ

Fig.4 エリアDで撮影

Fig.5 エリアDで撮影

Fig.6 エリアFで撮影

Fig.7 日和山南側で撮影

Fig.8 日和山北側で撮影

調査日時：2024年7月17日（水）9:45～11:00，天気：くもり

今月も水がかなり少ない時間帯であった。定点観測では、ハマツナが広範囲に広がっているのが分かる。昨年大雨で流失したエリアにも広がっているのが確認できた (Fig. 1)。エリアAのヨシは、大きい個体で2m以上にまで成長している (Fig. 2)。エリアCのシオクグは、先月見られた果序はすっかりなくなっていた (Fig. 3)。エリアDでは、コウボウシバの果序がすっかり茶色くなっていた (Fig. 4)。エリアFではウンランが群生しているのが確認できた。ウンランの生育エリアも広がりつつある (Fig. 5)。ウンラン群生エリアの東側でガウラの花が見られた。10数株がまとまって生育しており、他では見られなかった (Fig. 6)。エリアFでは、オニハマダイコンの個体が数個体ばらばらに点在して見られた。3年前にエリアGの山からの土砂で作った土地に群生していたが、その後まったく確認されていなかった種である。潟湖周辺では初めての確認である (Fig. 7)。日和山南側で見られたテリハノイバラは、花だけでなく、ほとんどが枯死してしまっていた。ただ、新しい個体が出始めていたので、すべてなくなったというわけではなかった。今後の生育状況を注視したい (Fig. 8)。

(宮崎佳彦)